



■■■ スピーチ・例会行事 ■■■

「私設図書館・曾田文庫の挑戦 ～ 公共とは何か」

山陰中央新報社 出雲総局  
報道部長 森田 一平 様

出雲総局報道部で3人のスタッフ  
でやっています。生まれは邑智郡羽  
須美村出身です。羽須美村はたたら  
製鉄で有名、たたらと銀の大生産地、  
出羽からの鉄が包丁の材料として大  
阪に出た、最初の包丁となりました。



さて、曾田文庫は、元県職米田孟弘氏が松江市雑賀町で2003年から  
始めた図書館である。

曾田文庫は松江市雑賀町の細い路地にひっそりとたたずむ一軒家  
に6000冊以上の蔵書が並ぶ。2001年3月「曾田篤一郎文庫ギャラ  
リー」を創設し、市民に私設図書館という文化を根付かせた。子供か  
ら高齢者まで幅広い世代が、自宅にいるような気分で読書を楽しむ  
など「本を愛する気持ち」を育む場所として定着している。米田氏は  
中学から大学まで「柔道一直線」でマラソンも得意なスポーツマン。13  
年前に55歳で亡くなった妻の清恵さんの実家を一緒に整理していた  
際、清恵さんが「ここは本の宝だから」とつぶやいたのが頭をよぎり、妻  
の実家を図書館にすることに。図書館名は、清恵さんの父の名前に  
ちなんだ。

曾田氏は年300～400万円の私財を投げ打って図書を購入してきた。  
しかし曾田文庫運営に情熱をかたむけてきた米田氏も2011年病につき  
今は市民の皆さん、曾田文庫応援団(30人)に引き継がれている。

同文庫の年間利用者は2,500人を超える。

曾田文庫の意義と役割～「公共性」

個人図書館でもない、公共図書館でもない。

「市民の図書館」構想・理想はニューヨークの図書館

「市民による参加型・対話型の図書館」で市民が寄付などを元に図書  
館を運営するのは、全国でも例がない。閉じ込められた本をもう一度人に  
読んでもらうことにより、本を読むことの素晴らしさ、本による社会的コミュニ  
ケーションの進展。そして文庫の継続と存続が大切なことである。